

あなたをプラスの人生へと導く

しなんげ

10
2017



あなたの初めは小さくあっても
あなたの終りは非常に大きくなるであろう。
(ヨブ記 8:7)

純福音東京教会・出版部

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 2-2-19 Tel.03-3232-0067 Fax.03-3232-0729 www.fgtc.jp

Full Gospel Tokyo Church

CONTENTS

- 2 驚異的な変化 イ・ヨンフン牧師
- 4 ヨンサンコラム チョウ・ヨンギ牧師
 - ・目に見えない世界
- 6 メッセージ 志垣重政牧師
 - ・聖霊様と共に
- 9 **特集** | 次の時代が危い！
 - ・暗闇へ向かう魂を救い出そう
 - ・子どもたちに失った遊びを見つけてあげよう
- 21 信仰の明文化を成し遂げますように② イ・ヨンフン牧師
 - ・ヨセフとダニエルのように生きなさい
- 26 主と歩く ヘンリー・グルーバー牧師
 - ・真理に対する愛を受け入れられないならば
- 31 世の中へ アン・ヒファン牧師
 - ・ドローンが空飛ぶ時代に何を伝えるべきか
- 35 これが知りたい シン・ソングジョン牧師
 - ・エデンの園に出てくる蛇は、今日私たちが見るその蛇なのか？
- 37 幸福な人たち ゴン・ジョング牧師
 - ・全身で福音を伝える踊る礼拝者
- 42 統一時代を開く ベン・トレイ牧師
 - ・愛をもって仕えること
- 48 クリスマスと生活経済 コ・ヨン代表
 - ・人間のもうひとつの友人、 ロボット市場のトレンドについての考察
- 52 世の終わりの日まで ソン・ヒョンギョン牧師
 - ・迫りくる審判の日、「ヨムハフー」

この「しなげ」は、おもに韓国版信仰界 9 月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。
ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

驚異的な変化

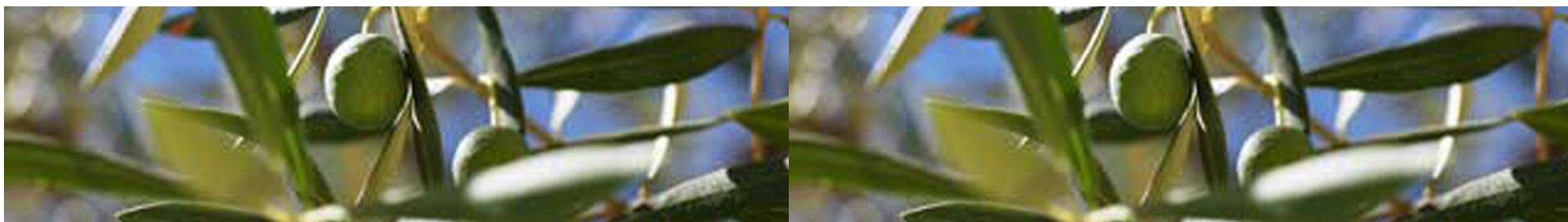
町を歩いていて、美容室の看板が目に入りました。「ヘアスタイルを変えるだけで人生が変わる」という看板の文言が目立ちました。人生を変えられるきっかけとなった証を持つということは、本当に貴重な体験です。創造的な変化は祝福です。

昨年の夏、釜山大邊（プサン・テビョン）港の近くにある小学校でも、改名による変化が世間の注目を集めました。「大邊小学校」の名前を変えよう、というスローガンでした。小学校生徒会長に立候補した子どもの公約事項です。言葉の発音から感じる語感が良くないため（訳注：韓国語の大邊と大便は同じ発音のゆえに）、会長になると学校の名前を変えるということです。結局、PTA及び同窓会、地域の世論に後押しされ、54年ぶりに校名を変更するようになったというニュー

スが、話題に上がりました。「ヘパラン小学校」などの案が浮上しました。

54年ぶりに校名される出来事を見守りながら、天の国の摂理を考えました。変化により、人間の意志や人生、環境、歴史までも変えられるのに、まして主イエスが働かれるならば、偉大なる変化が起こらないはずがありません。罪と咎で死んだ人生は「選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民」（Ⅰペテロ 2:9）に変わります。

主が共にいてくださるならば、嘆きが賛美に、呪いが祝福に、地獄が天国に変わります。猛暑が過ぎ去った9月の青い空が、その変化を示しているようです。†



目に見えない世界



チョウ・ヨンギ 牧師

単一教会として世界最大規模であるヨイド純福音教会の元老牧師として仕えている。筆者は、美しい社会作りへの参加と、真の福祉社会のために、キリスト教精神を基にして設立された「ヨンサン・チョウ・ヨンギ慈善財団」の理事長として、第二の働きを繰り広げている。

信仰は目に見えない世界を語ります。目に見えない所には何であれ、根源的で尽きない祝福と恵みがあります。信仰とは、古くて可視的、かつ流動的な世界ではありません。根源的な世界を受け入れ、その世界の中で新しい創造と設計と能力を見出し持ってくることです。今、私たちの目に見えるこの美しい世界は、創造される前に、まず神の御旨の中で計画されていました。そして神様が「…よ、あれ」と仰せられた時、御計画通りに形を作り、外に現れてきたものです。

列王記下 6 章 8 節以降を見ると、エリシャのしもべゲハジは、目に見える世界だけを信じる人でした。スリヤの王はエリシャ

が滞在しているドタンに来ます。スリヤ軍隊がイスラエルを侵攻する際、すでにその事実を知っていたエリシャがイスラエル王に予め警戒させていたため、エリシャを殺すためでした。

朝、ゲハジが起きて向かい側の山を見ると、スリヤ軍隊が蟻のようにその町を囲み、彼らの槍と剣が朝日で光っていました。ゲハジは天が崩れるような思いでした。もう死んでしまうと思いました。このように目に見える世界だけを見る信仰は、見える環境が変化すると共に変わっていきます。

しかしエリシャは、目に見えない霊的世界を見る信仰を持っていました。霊的に、数多い火の戦車と火の馬が山に満ちて、エリシャのまわりにあるのが見えました。エリシャは祈ってゲハジにその世界を見るようにしました。このように、祈りは見えない世界に対する信仰を現実に移す役割をします。

今日、神様はエリシャのような聖徒を探しておられます。大多数の人々が環境を見て、敵だけを見て恐れます。キリスト教の信仰は、このような人々に見えない世界に対する信仰を植え付け、見させ、環境に支配されず、苦難に押し潰されないで、絶望と苦難に打ち勝つ勝利者と創造者を造り出します。

今、苦難の中にいますか。環境の暗闇の中にいますか。絶望の中にいますか。目に見える世界に頼ってはいけません。目に見える世界だけを見るのは止めましょう。この世界はスリヤの王の軍隊のように、サタンの権勢が陣取っている世界です。その向こう側の世界をご覧ください。天と地の間に満ちておられ、私たちを助けるために来られた『助け主聖霊様』を見つめてください。そうすると、皆さんは「われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから」（列王記下 6:16）という事実を確実に悟るようになります。†



聖霊様と共に

—— ヨハネによる福音書 4 章 14 節 ——

「しかし、私が与える水を飲む者は、いつまでも渴くことがないばかりか、私が与える水は、その人の内で泉となり、永遠の命に至る水が、湧き上がるであろう。」

夢を抱いて結婚してみたものの、現実^{せき}は本人の理想とかけ離れたものでした。一度離婚をした後は、堰を切ったように夫を替え続け、五度の離婚の末、最後は結婚もせずに何の当てもない同棲生活を送っていたサマリヤの女が、井戸の傍らでイエス様に出会います。「この水を飲む者は誰でも、また渴くであろう。しかし、私が与える水を飲む者は、いつまでも、渴くことがないばかりか、わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠の命に至る水が、湧き上がるであろう。」（ヨハネ 4:13～14）とイエス様に言われ、女は感動して「主よ、私が渴く事がなく、また、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい」（ヨハネ 4:15）と答えます。今、イエス様が皆さんを訪れて同じ御言葉を下さいます。どうすれば、その水を飲み、変わることができるのでしょうか。

イエス様を受け入れた者の内から聖霊による水が川となって流れ出ます。この生ける水によって霊の目が開かれ、新しい世界を発見することができ、肉の死が終わりでないことを知り、永生を悟ることができるのです。神様との対話が可能になり、深い交わりの中に入り、価値観が変わり、毎日神様と共に暮らそうと努力するようになります。人生の目的が富や権力、地位や名誉から神の御旨に変わり、判断基準が神様中心、御言葉中心に変えられていくのです。

サマリヤの女はイエス様のことを知ると、直ぐに救い主として受け入れ、それまで人を避けていたのに、大胆に出て行って福音を宣べ伝え始めます。虚無感に苛まれていた女の内から新しい力が溢れ出て、もう一度ちゃんと生きてみようとする意欲が湧き上がりました。イエス様は哲学でも宗教でもなく、生ける水そのものだからです。彼女に伝道された人々は「私たちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそ真に世の救い主であることが、わかったからである」（ヨハネ 4:42）と答えます。賛美と祈りを通してこの水を飲むと、人生が変わるのです。「私は、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない。」（ヨハネ 10:28）——私たちは、イエス様の許から離れてはなりません。なぜなら、離れた瞬間に生ける水の泉が涸れてしまうからです。

そして、聖霊のバプテスマを受けなければなりません。「誰でもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が



川となって流れ出るであろう」。これは、イエスを信じる人々が受けようとしている御霊をさして言われたのである。」（ヨハネ 7:37～39）——生ける水の川は、私たちの不安や恐れ、焦燥や絶望を洗い流してくれます。五旬節にマルコの屋根裏部屋に聖霊が降り、川のように流れ出した時、弟子たちはエルサレム、ユダヤ、サマリヤの全土、更に地の果てまで行って福音を宣べ伝え始めました。日に、3000名、5000名が悔い改めたとあります。川が流れれば、その流域で穀物が豊かな実を結ぶように、人生の素晴らしい実を結びます。また、都市が形成されるように、皆さんの周りに人が集まります。更には、川によって交通と運搬が生まれるように、伝道が始まります。聖霊による生ける水の川の流れが、迫害国家であったローマをキリスト教国家に変えていきました。

私たちは聖霊充滿にならなければなりません。人には生きて行く上でエクスタシー（洗惚感）が必要です。酒や麻薬によって得られるエクスタシーは一過性のものですが、聖霊の生ける水により与えられるエクスタシーは、私たちの人生を変えてくれます。愛する聖徒の皆さんがいつも聖霊充滿でありますように、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。†

特集 | 次の時代が危い！



チョウ・キュウナン | 幸福教会・キリスト教コラムニスト

韓国語でジャサル（自殺）を逆に読むとサルジャ（生きる）になる。英語でも、悪を（evil）逆に読むと（live）になる。このように悪は、人の人生を反逆させること——生命力を逆流させること——によって、その人を死に陥らせる。すべての悪の最終集結者は死だ。悪魔は私たちを死の道へと導き入れ、悪魔の道具とするのだ。そうってしまった魂は、霊的に自分の魂だけを殺すのではなく、他の人の肉体も連れ込み、道連れにする。彼らはもはや、自分の意志で自分の魂をコントロールする統制力を失った病人なのである。彼らは不健全かつ不自由な霊魂たちだ。

人間の邪惡に対する鋭い分析力をもって、人間の邪惡を癒す療法に対し、明るいメッセージを伝えるスコット・ペック（Scott Peck）博士は、彼がクリスチャンとして回心した後、＜平気であうそをつく人たち——虚偽と邪惡の心理学＞という文庫の中で、次のように述べている。

「悪の本質的構成要素は、自身の罪や不完全さを意識すること

ができないのではなく、その意識を受けとめようとししない点だ。邪悪な人は、自身の邪悪を意識すると同時に、その意識から避けようと必死に努力する。彼らは反社会的異常性格者のように、道徳性に対する意識もなく、ただ単に無感覚な楽天主のようではない。彼らは、自分の明確な意識の隠れ部屋を持っており、自身の邪悪な証拠を、その隠れ部屋に隠し込むことに必死になっている人だ。

罪と神の御言葉の駆け比べ

去る3月29日「仁川（インチョン）市の小学生殺人事件」はあまりにも衝撃で、いまだに社会に余波を残している。被害者が8歳の女の子であったこと、殺人犯は17歳の少女であったこと、そしてその犯行が言葉で言い表せないほど残虐な犯行であったことなどが、私たちを驚愕させる。何よりも私たちを驚愕させられるのは、その犯行の手口があまりにも残酷であったことだ。まだ純粋であるべき思春期の少女が、そのような残忍な犯行を犯しながら、あまりにも泰然としていたことや、逮捕後も何こともなかったように、一抹の罪責感も感じなく平然としていた態度に、人々は口を噤んだ。まだ17歳の少女、誰もが羨む上流家庭環境のなかで、生活環境に恵まれていながら、なぜ、あれほどの惨いことをしたのだろうか？ 3,4カ月経った今に至っても、国民は憂鬱に包まれている。その事件発生を、わが家のわが子に重ね合わせて考えてみる。

こういう事件を基に、社会的心理学者、青少年犯罪心理学者、精神医学者など、それぞれの分野において自分の意見を述べる。そのような犯行を犯した少女の心理状態を心理剖検で分析し、多方面から原因を探ってみる。けれども、犯罪動機や原因分析

はほぼ一般的だ。私生活保護のゆえに、まだ加害者の家柄や、その他の環境について、具体的に提示されるのではなく、ただ一般的な心理分析の枠にはめて、「愛情欠乏症」にかかっていたり、病的な人格障害の「サイコパス（psychopathy_精神病質）」としか言えないのである。ならば、これに対して、キリスト者の立場からはいかなる霊的観点をもって見るべきだろうか？

このような人間の最悪な犯行の前に、キリスト者は恐れおののく心で、神の御前にひざまずき、主の哀れみを求めるしかない。そして霊的側面から、このような犯罪に対して人間は——犯罪者本人は——いかなる精神状態であったか、考察してみる必要がある。問題は、犯行を犯した少女が、自身の犯行に対して全く良心の呵責や罪責感を見せないところだ。これはどう評価すべきだろうか。本当に少女は全く良心の呵責を感じないほど、善悪をわきまえる理性と感情の鈍った良心になったのだろうか？ でなければ、どうせ起こってしまったことだから、かえってそれを楽しむような態度で、演劇における一つの役柄と思い演じているのではないだろうか？ 霊的な観点からは、罪意識による罪責感の有無によって、悔い改めと救いの道が得られるからだ。まるで同性愛は先天性か後天性かを考える問題のようである。しかし、この問題は明白な答弁がある。人間の考えや感情による基準以前に、神は、聖書を通して何を教示しておられるだろうかである。人間の道徳、倫理、環境、及び内的心理状態による罪悪の判断ではなく、良心の鏡とも言える神の御言葉が基準（Canon）となるべきだ。

悪魔の子たち

まず、この事件は社会心理学的観点からみると、いくつか考

慮すべきことがある。

第一、社会通念による視覚だ。基本的社会制度の枠の中で考えてみることだ。二つの様相は対立するようになる。例えば、「死刑制度」に対する賛否論争のようなものだ。刑法には死刑制度は厳存しているが、実際に世論に押されて、今まで実行された事例は殆どない。

しかし、今回の「仁川小学生殺人事件」の発生により、死刑制度に賛成する世論が立ち騒いでいる。また、未成年者に対する刑事処罰においても、今まで寛大だったのが、これからの犯罪予防のためにも強化すべきだと主張する。

第二は、父母（家族）からの視覚だ。親にとって、わが子に罪人はいない。ただわが子のだけだ。聖書における「放蕩息子の例え話」もそうだ。父親は、放浪息子を責めることなく、ただわが子が帰って来ただけで喜んで迎え入れた。しかし、その息子が義人になったわけではない。父親にとってはただの我が子であっても、刑事や周辺の視線から見れば罪人だ。その子が親の懷にいる間は、安全でいられるかもしれない。しかし、再び親元から離れれば、彼は生き残れない可能性も考えられる。でなければ、周辺にもっと大きな問題を起こし、多くの人に迷惑をかけることも考え得ることだ。ですから子どもは、大人になって社会人の一人として見、それなりの教育をしなければならない。

第三に、本人の思考体系からの視覚だ。本人の人生観、価値観などによるものだ。社会的の通念や家庭教育が、わが子を悪の化身にするつもりはなかったかもしれない。また、本人も望んでいないはずだ。しかし、結果的に熾烈な競争中心の学校教育と誤った親の成功主義が、一人の人間を悲惨な悲劇に追い込んでしまったことに、この社会——親や世論は、責任を感じる

べきだ。だからといって、このような社会現象を一般化させ、「そうするしかなかった」と弁明するのを許してはならない。幸福が選択によるものだとしたら、不幸も選択によるものだ。恐ろしい邪惡の前に、「果たして自分は、悔い改めて立ち返るべきか、罪惡の中で地獄に引きずり落とされるまま、自身を放置すべきか」——これもやはり自分が選択すべきことであり、自分が決めるべきことだ。人は誰でも、良心に焼き印を押される前に、選択の機会が与えられたはずなのに、自分の誤った人生観や価値観など、非理性的な思考体制が非人間化の道へと踏み入れさせたからだ。

最後に、聖書に基づいた靈的観点からの視覚だ。これは、私たちが考える人間のあらゆる理性的要素を下ろし、ただ神の御言葉に照らし合わせ、私たち自身を振り返ってみることだ。考えてみよう。親が医者だという恵まれた環境と、色白で細長い顔をした美人の可愛い17歳の少女が、何の不満があってもあれほどの残忍な犯行を犯しただろうか？ それは、人間の理性では到底、理解できないことであり、納得のいかないことだ。これは人ではなく、その人の中に入り込んだ悪魔の仕業としか考えられない。前述したM. スコット・ペック (M. Scott Peck) 博士は、根本的に「邪惡な人がいる」と述べる。背筋が凍り付くような話だ。しかし、私たちの救いはまず、私たちを愛してくださった主の選択であり、恵みの結果であると知れば、感謝を捧げずにはいられなくなる。また今の時代に向けて、聖書は、邪惡な時代、「……曲った邪惡な時代のただ中であって……」(ピリピ2:15)、終りの時になると、反キリストとその家来である偽預言者が現れ、人々を惑わし、——「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、

選民をも惑わそうとするであろう。」(マタイ 24:24)、——不法が蔓延するよう、悪魔の模型がそのまま現れるであろうと示している。と同時に、悪霊に捕らわれた悪魔の子たちに対する実体を訴えているのである。

「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。」(ヨハネ 8:44)

ですから、悪魔の手に捕らわれないようにするためには、悪魔の策略に対抗するための神の武具を身に着け(エペソ 6:11)、聖霊の力によって霊的闘いにのぞむことだ。サタンが私たちを倒そうと、麦のようにふるいにかけて(ルカ 22:31)、私たちの敵である悪魔が、吠えたける獅子のように、食い尽くすべきものを求めて歩いているこの時、身を慎み、目を覚まして、私たちを顧みてくださる神の力強い御手にすべての思い煩いを委ね、私たちを高くしてくださるその時まで、謙遜であるべきだ。

「だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししののように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。」(1ペテロ 5:6～8)

ただ聖霊の力だけが、ただ祈りだけが、勝利の道なのである。主よ、私と共にいてください！†

特集 | 次の時代が怖い！



ファン・ジョムゴン牧師 | (財)開いたドア青少年財団代表
開いたドア遊び治療センター共同代表

10代後半の少女たちが殺人をゲームのようにした。それも8歳の近所の子どもを誘拐し、残酷に殺害し遺体を毀損した。ホラー映画よりもっと恐ろしいことが現実起きたのだ。殺害をした17歳のキムさんはどんな子どもなのだろうか？ 残酷で猟奇的な事件から見て多分、非正常的な子どもに違いがないと思う。しかし、被害の子ども側の代理人を務める弁護士によると、極めて平凡で正常な普通の子だという。むしろ同年代の子どもたちよりはるかに成熟し、冷静に見えるという。

それではこの子の家庭環境はどうだろうか？ 驚いたことに、共犯パクさん(18歳)とともに、相当な社会的地位と財力を持つ富裕な家庭の娘という。このように恵まれた環境で育った子どもが、どうしてこの世を憤怒させる残酷な犯罪を犯したのか。何が彼女たちをこのようにさせたのだろうか？

原因はインターネットゲーム依存症だった。彼らは、インターネットに無防備に露出されていた。ブندانソウル大学研究チームによると、インターネットゲーム依存症の人の脳は、麻薬中

毒者の脳に似ていると述べている。研究結果によると、インターネットやゲーム中毒は、注意集中力の低下、過剰行動性、そして、衝動性が主な症状である注意欠陥過剰行動障害（ADHD）が高く現れ、強迫的な傾向も非常に高いという。その他にも衝動調節障害、学業（作業）の能力の低下、対人関係忌避など、日常生活が不可能な状態につながり、最終的には自分の人生を疲弊させるといわれる。

ところで、私たちの青少年は、彼らの文化がずっと前にインターネット中心、特にゲーム文化に再編された。そのために、友たち同士の出会いも、現実の世界ではない仮想のマップで行われている。「いじめ」に遭わないためには、同級生の中で流行するゲームに沿っていなければならない。自然にゲームへのアクセス回数は増えてきて、依存症の可能性も高まってくる。

自分の人生を生きていく力を失い、ゲームに没頭する子どもたちは、時間が経つと勉強にはより自信が無くなり、うつ病もひどくなる悪循環を経験するようになる。家庭環境、入試競争、睡眠不足、愛情の欠乏などの理由で、知らないうちにうつ病を患う青少年たちは、自分の憂鬱な気持ちをゲームに慰められ、インターネット上での補償を受けようとする傾向がある。彼らの特徴は、現実感が足りないことである。自分が望んでいた目標が達成しなければ、訳もわからずにゲームに打ち込むようになる。

仁川（インチョン）小学生殺人犯」であるキムさんとパクさんも同じだ。キムさんは、学校生活に適応できず、昨年7月頃退学した。そして検定試験を準備しながら、猟奇的な事件に心酔した。普段ゴア系（人を残酷に殺し、遺体を毀損する写真や

映像など）を楽しんで観たという。共犯のパクさんは、大学入試受験生である。二人は1,2ヶ月前にゴア系を素材にしたオンラインコミュニティで出会った。

キャラクターのコミュニティで殺人をしたり、非常に猟奇的な犯行をする状況の中で、お互いロールプレイをした。二人でやった内容はマフィアで、年上のパクさんがマフィアの間ボスであった。そして、キムさんは組織員として、上から命令されれば、それが何であれ（殺人であっても）、何も言えずに無条件に実行しなければならない、そういう関係だった。そして、二人は契約恋愛関係となった。最近10代の契約恋愛は、仮想空間において、私たちが想像する以上に多く行われている。インターネット時代の子どもたちの考え方としては、一般的にあり得ることだ。

仮想の世界で、子どもたちは同性愛を役割演技のようにして契約関係を持つ。そして同性愛を遊びのようにする。キムさんとパクさんも、実際に同性愛関係だった。キムさんは女性の役割をし、パクさんは男性の役割をしていた。そのために、キムさんは、パクさんに言われたままに従うしかなかった、と供述する。犯行直前の彼女たちの会話は想像を絶する。キムさんは「狩りに行く」と告げ、パクさんは「遺体の一部をプレゼントしてちょうだい」という。実際に子どもを殺害した後、小指と腕と太ももの肉をパクさんに渡した。パクさんはこれを状況劇という。

何が彼女たちを善と悪の分別力まで麻痺させてしまったのだろう？ ゲーム中毒とスマートフォン中毒は、実際の対人関係の中で、リセット症候群を生み出している。この症状の代表的な特徴は、現実世界と仮想世界をうまく使い分けられないようにする。コンピュータゲームがうまくできないときは、そのまま

電源を消したり、あるいはコンピュータが気に入らないときに電源を切って新たに立ち上げるように、人生にもそれが可能だと考えている。人の関係をそんなふうに整理できているのである。この症状がひどくなると、現実と仮想の世界が区分できず、犯罪行為をただ一つのゲームのようなものと規定し、行動に移すのである。コンピュータの電源ボタンを押して再起動させるように、自分自身もそのようにリセットすれば、すべての罪が消え去ると、錯覚に陥るのである。

実際にこのようなことが起きている。小学校の子どもがコンピュータゲームをしていて、弟を殺害する事件があった。仮想の世界で殺害するゲームを楽しみ、現実で、実際のゲームを楽しんでみたかった——これが殺人の理由だった。また、ゲームにはまった中学3年生は、コンピュータゲームをやめさせた母親を殺害し、自分も後を追って命を絶った事件もあった。それだけではない。2001年には暴力性の強いインターネットゲームにはまり過ぎて、中学生（14歳）が小学生の弟（10歳）を殺害する事件もあった。当時、この学生は、暴力性の濃いコンピュータゲームに心酔し、ゲームアイテムとして登場する斧を、実際に購入して弟を殺害した事件だ。ゲームのキャラクターと弟を勘違いして起こった事件だ。

このように、インターネットゲーム依存症は、児童や青少年問題の核心要因として作用している。そして、ゲームの構成も中毒性を高める方向に進化し続けている。コンピュータグラフィックス、サウンドエフェクト、シナリオでは、アイテム以外にもゲームに没頭している構成要素が多くなった。ほとんどのゲームが軍隊の階級のように身分を示す「レベル」の構造になっていて、他の人よりも高い「レベル」に達したいという青

少年たちの心理的欲求を刺激し、ゲームに没頭させている。

遊びを通じた自己発見

子どもたちは、自分たちの人生であり、生きている世界を理解できる遊びを失った。私たちが遊びを通して自己発見の旅ができるように、今は助けてあげなければならない。緊張、不満、不安定感、攻撃や混乱を、遊びを通じて解消できるようにさせなければならない。遊びは、人間の生活の中で最も原始的な状態をいう。最も自由な状態の表現である。そのため、人間の明るさを表現するのが遊びだ。創造の世界とキリストの出現は、まさに神の愛の遊びだ。救いは神の愛のゆえの出来事であり、それに答える人間は、自由に神の愛の遊びに答える「ホモルーデンス（homo ludens、遊ぶ人間）」である。

私たちの子どもは、国際化、情報化時代を生きている中、その情報の数ほど問題も多い。魂と肉は日増しに病んで、都市化の中で安定感を失った。どこに行けばいいかわからず、とんだりはねたり、ぶつけて倒れてしまう彷徨う子どもたちだ。受け入れ難い現実と、自分の力で制御することができない現実の中で、疾風怒涛の時期を経験しているのだ。このような危機を経る理由は、神から離れたことにある。真の出会いの喪失にある。病んだ社会構造の中にある。

彼らは誤った子育て環境の被害者である。もはや教会と家庭は、この危機に直面している子どもたちに何か答えてあげなければならない。そして、危機状況の壊れた心を癒さなければならない。彼らを治めておられる神の御言葉によって、傷ついた心と魂を愛し慰めてあげなければならない。契約の箱の前で裸

になって踊った、ダビデの姿のように、子どものように純粋な心で神の御国を受け入れなければ、決して神の御国に入ることができないとされた主イエスの言葉のように、私たちは純粋な子どもの姿に戻してあげなければならない。

神は世界創造を遊びに比喻された（箴言 8:22 ～ 31）。そして、人間は神の喜ばれる現存の中で楽園の遊びをすることに描写されている。私たちの子どもたちが仮想の世界ではなく、現実の中で創造の驚異的な世界を思い切り経験できるように、失われた遊びを見つけてあげなければならない。

遊びは発達過程である。子どもたちが創造的になって性格を統合的に活用することができるのは、遊びだけを通して可能になる。そして遊びは子どもを変化させて癒してくれる役割もする。精神的、社会的、心理的な新しい経験へと導き、意識と行動が変化するように助けてくれる。ところが、子どもの遊びが失われた。これは個人的な喪失だけでなく、社会的な喪失も共にもたらすことである。彼らを神の創造の世界である遊び空間に導かなければならない。自然と遊びを通して、創造的で自由な次元に変えられるように助けなければならない。一人の子どもを育てるには町中のすべてが必要とされるように、同じ年の子どもたちと共に自然の中で交わり、遊ばさせなければならない。そして親は、子どもたちと同等な立場となって、遊びパートナーになってあげなければならない。一緒に野草遊びもして、家庭菜園遊びもしながら、愛の技術を学び身に着けるようにしなければならない。このように遊びが回復された時、私たちの子どもたちは、平和をつくる（a peace maker）大切な人として生きて行くようになるだろう。†



主体思想の代わりに基督教の福音を植えてあげよう

北朝鮮宣教は私の切なる祈り題目だ。北朝鮮に基督教が入れば、急速に福音が拡散されるだろう。なぜか。

ピョンヤンに行くとキム・イルソン主体思想塔の下部分にこのような文字がある。

「主体思想は永遠不滅だ。」そして、ピョンヤン市内の至る所に次のようなプラカードがかかっている。「偉大な主席キム・イルソン同志は永遠に私たちと共にいる。」

「主体思想」や「主席様」という言葉に「神様」を代入すれば、基督教の心理と妙に一致する。北朝鮮の人々には主体思想が唯一の宗教だ。北朝鮮の住民はキム・イルソンの誕生日を記念する太陽節を最も大切な祝日として守りながら、キム・イル

ソンを神としている。北朝鮮は2千万ものキム・イルソン教信者の国というわけだ。彼らの心に生命力が溢れるキリスト教の福音を注げば、すぐに神の民として変化するだろう。キム・イルソンは生存時に多くの人々から贈り物を受けた。妙高山のキム・イルソン記念館には2万5千点もの多くの記念品が展示されている。展示品一つあたりを鑑賞するのにゆっくりした速度で全体を見ようとすれば何年もかかるそう。北朝鮮は私の祖父が神様と出会い信仰の花を咲かせた土地だ。そのため、北朝鮮宣教のために私の祈りはそれくらい熱いものだ。私はピョンヤンのジャンデヒョン教会、ソムンバク教会の聖霊運動に対してよく知っている。

解放前、北朝鮮には3,500の教会があった。今はキム・イルソンの母カン・バンソク女史が通ったチンゴル教会とボンス教会の二カ所だけ復元されている。

しかし、北朝鮮の地方には、崩れていない教会が多く現存されているという。大部分が昔の教会が共産党の公の建物として使われているそうだが、後に統一となり、その建物を少しリフォームし十字架と講壇を加えれば、再び教会として復元することができるのだ。

私たちが正確な数字を知ることはできないが、隠れて信仰生活を送る地下教会の教会員は心置きなく主を賛美し礼拝を捧げる日が必ずくるのだ。神様がこのすべてのことを成し遂げてくださる。

聖霊運動の中心に立つ

母方の祖父はファンヘドのジャンヨンの地で7つの教会を見

守っていた。ジャンヨンはソマン（希望）教会の設立者グァク・ソンヒ牧師、韓国教会史の巨木ミン・キョンベ教授の故郷でもある。ジャンヨンに宣教師が入る前、私たちだけの力で建てた韓国最初の教会がソレ教会だ。アンダーウッドとアペンジェラーが済物港（現インチョン港）に入る前にも、既に多くの人々がイエスを信じていた。中国と日本を通して福音を受け入れた人々が多くいた。イ・スジョンは東京に留学し、イエスを信じ、韓国に来るために日本に少し留まろうとしていたアンダーウッドとアペンジェラーにハングル文字を教えた。アンダーウッドとアペンジェラー宣教師はイ・スジョンが翻訳したマルコの福音書を持ち、韓国に入った。

韓国に聖書が入った経路は日本と満州だ。中国から入ってきた聖書はロス訳として知られているが、実はソ・サン

北朝鮮宣教がなぜ重要なのか。それは韓国教会史と直結するユン訳とするのが正しいと思う。売書人ソ・サンユンは中国で本を買い韓国で売った。その本の中に聖書が含まれており、聖書を見る中でイエスを信じた。そして長老教の宣教師であるロス牧師に出会い、聖書を翻訳することを始めた。ロス、マッキンタイヤー（二人は義兄弟という関係）、ソ・サンユン、この3人が聖書を翻訳したのだが、これを主導したのは、ソ・サンユンだった。韓国で聖霊の歴史が始まったのは1903年ウォンサン・大リバイバルだ。ハーディー宣教師がそれを主導した。1907年ピョンヤン・大リバイバル運動は、ウォンサンのリバイバル運動の結果として生まれたものだ。教会史学者ソウル神大パク・ミョンス教授の文をみると、その当時に聞いたこともない言葉（異言と推測）で祈ったと記録されている。1910年カンファド・

マリサンのリバイバル聖会の時も異言の記録がある。しかし、日帝時代から解放され、ペンテコステ聖霊運動はやっと命脈をつなぎ、純福音教会で再び火がついた。そして純福音教会は今、聖霊運動の中心にいる。このすべてのことが私たちの家族の信仰の歴史と決して無関係ではないのだ。


教会中心、神様中心の信仰訓練

祖父は「私の喜び、私の希望となられる」「主の中にいるわたしに」などの聖歌を好んで歌った。そしてヨセフとダニエルのお話を多く聞かせてくれた。

「神の人は神様が必ず責任を取ってくださる。世に妥協せず、正しい道を行けば結局神様が適切な時にすべてのことを成してくださる。あなたたちもヨセフのように正義をもって生きなさい。そしてダニエルの3人の友、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴのように信仰の節を守りなさい。」

祖父の「聖書の登場人物の話」は私の信仰の中心を捉えるのに大きく寄与した。少しでも良くない考えをしても、祖父の教えを思い出しながら、「私は普通の人とは違う人生を歩まなければならない。ヨセフのように、ダニエルのように、信仰の純粋さを守らなくては」と決心し人生を整えた。北朝鮮から辛くとも南下した祖父の子孫たちの中で誰一人として信仰の正しい道から外れた者はいない。子孫皆が大きな祝福を受け、裕福で幸福な生活を享受している。このすべては「神様中心」と「教会中心」の人生を教えた祖父の徹底した信仰教育のおかげだ。

「教会によく仕え、主のしもべに良く聞き従うなら、必ず子孫まで祝福を受ける。」

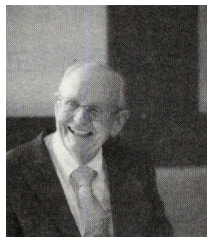


「神の人は神様が必ず責任を取ってくださる。世に妥協せず、正しい道を行けば結局神様が適切な時にすべてのことを成してくださる。あなたたちもヨセフのように正義をもって生きなさい。そしてダニエルの3人の友、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴのように信仰の節を守りなさい。」

耳にタコができるほど聞いた話だ。しかし歳月が流れてみるとその言葉がすべての真理だった。主日を守ることを徹底的に強調し、主日には何かを買って食べることも物を買うことすらできなかった。漫画本を見るのも禁止だった。礼拝外で世の娯楽は一切許されなかった。現実味の無い頑固な信仰だと陰口を言われるかもしれない。しかし、祖父のその徹底した信仰を尊敬する。人生で一度、これほどの徹底した信仰生活に送るのも決して悪いことでは無い。私が逆境と試練にぶつかる度、祈りでこれを克服することのできる力を持つようになったことも、このような訓練のおかげだ。誰かが私に向かい非難を浴びせてきても、反応せず黙々と祈りが出来る力を持ったのもこのような訓練の結果だ。†

ヘンリー・グルーバー牧師の
主と歩く

真理に対する愛を 受け入れないならば



ヘンリー・グルーバー
(Henry Gruver) 牧師

「世を歩くとりなし祈禱者」で知られた筆者は 18 歳の時からアメリカのアリゾーナ州フェニックスの犯罪多発地域で主と共に歩き始め、今も主と共に歩いている。彼は全世界のどんな場所でも、出会った人たちのために祈り、福音を伝えている。彼の人生には超自然的な不思議が多くあったが、より大事なことは、彼が主の御言葉に従順しながら歩き、祈っているという事実だ。

「彼らが滅びるのは、自分らの救いとなるべき真理に対する愛を受け入れなかった報いである。」(Ⅱテサロニケ 2:10 後半)

1993 年にシベリアを歩きながら祈る間、ソ連軍の高位職の人を伝道したことがある。私は彼と、ソ連の人々の顔が無表情であることや、鉄のチェーンを巻いて歩いているかのような重い足どりであることに関して話し合った。共産党政府はソ連の人々を、政府に無条件的に服従する国民にするために、計画的に休息と余裕を与えなかったと話した。

明るい表情、幸せで満足げな顔の表情をした人たちは目立ってしまうので、秘密警察や周囲の監視の対象になってしまう故、

彼らは硬くて無表情な顔になるしかなかったそうだ。徹底的な監視のもとで、国民の大半を奴隷のような生き方に追い込んだ共産主義国家はすべて滅びた。

ゴルバチョフが選んだ開放政策を通して、西欧社会に関する真実が知られ、ソ連は崩壊した。共産主義体制の矛盾と、共産国家指導者達の悪行が全世界に知られたので、人々はそれ以上共産主義思想に騙されないだろうと、多くのアメリカ人は信じた。しかし、神は私に「西欧世界との冷戦に勝ったと喜びながら国防力を弱化させ、共産主義に対する警戒心を緩め始めた時、共産主義はさらに力を増す」と警告された。

2016 年アメリカ大選で社会主義者バーニー・サンダースが民主党の大統領候補となりそうになる事件があった。共産主義が生産手段を国家所有にするものなら、社会主義は生産の結果を、高い税金を通して、国家所有とした後、国民に分配しようとする。共産主義者と社会主義者らは、お金持ちが権力と富を国民に返すと約束したが、ソ連と中国、南米などで共産主義と社会主義を選んだ国家は没落した。特に、キリスト教を迫害した国家は速やかに没落した。

アメリカは、初期から政府の力を最大限に小さくし、国民の力を最大限に大きくするために国民一人一人に最大限の自由を与える法を持っている。アメリカを建国したクリスチャンたちは、ヨーロッパから移った人たちだった。彼らはアメリカ人たちが最も自由に、自分の信仰良心に従って、神を敬い、礼拝できるように法を作った。アメリカ大統領が就任式でアメリカ国の憲法を守護すると誓うのはアメリカの古い伝統であった。

アメリカのキリスト教的価値観と法とは背馳すると言う社会

主義を主張するバーニー・サンダースが大統領になったならアメリカは一瞬にして社会国家と変わっていったはずだ。

キリスト教は左派でもなく右派でもないと主張する人らがいる。クリスチャンが聖書の御言葉に従順して教会と家庭、共同体を大切に、集団的思考を強要しながら党への忠誠を求める共産主義や社会主義を受け入れなかった故に、社会主義国家や共産主義者らがキリスト教を敵とみなし、迫害し、除去しようとした事実だけを見ても、そのような言葉は説得力に欠ける。

20世紀に真正面から神に敵対しクリスチャンを迫害した共産主義国家は全てが没落してしまった。中国のように迫害を乗り越え、キリスト教がリバイバルした国家では、21世紀になってキリスト教リバイバルと資本主義の一定部分を含むアメリカの富を受け入れ、国家経済がリバイバルするようになった。アメリカは民主資本主義の体制を持つキリスト教国家であり、ロシアは共産主義、非キリスト教国家であるという白黒論理はこれ以上通じない混乱な時代であり、我々が住んでいる国家の体系や伝統にもうこれ以上安定感を与えることができず、急変する時期である。

眩惑の種

アメリカをキリスト教国家だと言うものの、アメリカの映画と芸能界は淫乱、暴力、死を伝えてきた。21世紀になって中国とロシアではキリスト教リバイバルが起こったけれど、アメリカの中では、教会が力を失っていく一方である。キリスト教リバイバルがあった中国では、個人の自由がより大きくなり、豊かになったが、キリスト教が衰退しているアメリカでは個人の自由が減って国家経済も衰弱しつつある。教会が神を恐れか

しこみ、従順するのにかによって国家の運命と体系が決定されるという事実がもう一度明白にされたのだ。

アメリカでも幾度もリバイバルが起こったが、そのリバイバルが国家を改革させることはなかった。アメリカ建国初期には、キリスト教を基盤にして法を造り、政治体系を築き、大学を建てて若者を教育させた。教育、言論、文化界など、アメリカ人の心に影響を及ぼす機関の数々は、20世紀半ばから21世紀に至るまで反キリスト教的な勢力によって掌握されてきて、政治家たちも彼ら反キリスト教勢力の影響を受けていた。この反キリスト教勢力は戦略を持って徹底的に準備した上で動いてきた。

反キリスト教勢力が、進歩左派という名でアメリカを変化させる間、教会はたましいの救いと福音伝道、教会成長にばかり集中してきた。アメリカでは何度かリバイバルがあったが、教会だけのものに留まり、アメリカ社会を変化させるまでにはなかった。今は建国初期のように、たましいの救いとともに、神の正義がこの地に実現されるように、国家の基盤をキリスト教の上に築く努力をしなければ、アメリカはキリスト教国家として存続できないほど、キリスト教基盤が弱体化された。

ドイツ人たちが、今はヒトラーを「ドイツを滅亡に導いた指導者だ」と知っているが、ヒトラーは、一時ドイツ人の多大な愛と尊敬を受けていた指導者だった。ルターを誕生させたドイツのクリスチャンの中では、ドイツ、ゲルマン民族の帝国を回復させ、国民を結び合わせたヒトラーは、自分たちの祈りの答えであると信じて支持した人も多かった。

社会主義の独裁者であるヒトラーが、第1次大戦後、疲弊したドイツ経済を回復したので、ドイツ人たちは男女老若を問わ



私は神様を信頼しない、自己憐憫でいっぱいの人間でした。しかし、神様は私の状態に関係なく私を愛し、選んで、十字架の死で、御子の命を私にくださったということが分かるようにしてくださいました。

ず、ヒトラーを熱烈に支持した。ヒトラーがインドの異端宗教の象徴と十字架を結合させた、ナチスの十字架を教会に掛けるように要求したとき、多くの教会がそれを受け入れた。ドイツ人が全的、かつ熱狂的に支持するヒトラーに逆らい、真実を伝えた人たちは、多くのクリスチャンの標的になった。ヒトラー政権末期には迫害され、殺された。2次大戦が終わった直後にも、ゲルマン民族だけが神に選ばれた唯一の民族であり、世界を支配すべきだというゆがんだヒトラーの論理に騙されたドイツ人たちは、ソ連と連合軍を恨みながら、ヒトラーを支持した。

国家が滅亡する過程で、このように、国民が神に敵対して思い上がり、眩惑を真実として受け入れる過程に入る。一度眩惑された人々は、眩惑に落ちいった結果として、すさまじい苦しみに会うまでは立ち返れないものである。

アメリカとヒトラーの例をあげる理由は、眩惑の種がまかれ、クリスチャンたちがその眩惑に同調するなら、結局は滅亡に至るので、自身が属している国家で、今どんな種がまかれているのかを、教会が目覚ましてわきまえ、とりなしていくべきであるという警戒心を引き起こすためである。†

ドローンが空飛ぶ時代に 何を伝えるべきか

人間が手段や方法、理性や論理、科学や文明でできることを教会でする必要はない。教会はむしろそれ以上のことをすることができる。すでに述べられた最先端技術に、わたしたちの目をみはるものがあっても、人間は被造物にすぎないという弱さを持っていて自らの罪を解決できず、ただイエス様だけが罪を赦し、人間の根源的な問題を解決することができるということをはっきりと認識しなくてはならない。



デジタル葬儀社というものがある。インターネット上を漂っている好ましくない写真や映像を探し、本人に代わって消してくれる人を意味する。デジタル葬儀社は露出映像や自分でアップロードはしたけれども、消去したい文章や写真、成形手術前の写真や昔の恋人と共に撮った写真を消すといった仕事をする。

文章や写真をアップロードしたが、パスワードを忘れて消すことができない場合もデジタル葬儀社に任せれば、きれいに解決してくれる。韓国雇用情報院がデジタル葬儀社を近5年間に現れた新職業として伝えているように、世の中は驚くほど変わっている。

世の中が急激に変わり、人々を当惑させることも生じている。人体に移植する半導体チップがそのひとつである。米国ウィス

コンシン州にあるマイクロ技術企業スリースクエアマーケットが 50 余名の自社職員に半導体チップを親指と人差し指の間に移植するように提案した。この手術は、あっという間に終わり、手術を受けると、簡単に物品を購入でき、出退勤記録だけでなく出入管理設備の自動開閉や社内の機器使用、医療健康情報貯蔵等もできるという。この生体チップが 666 に当たるかどうかという論争がいよいよ激しくなる状況である。

交通分野においても画時代的な変化が起きている。より遠く、より早く移動しようとする人間の熱望がいくつもの結果を生み出している。最近、米ネバダ州で真空チューブを通して時速 200km で走行できる超高速の列車 ハイパーループ (hyperloop) の試作品走行試験が成功を収めた。 空気を取り出したチューブ中を走行するために空気抵抗が皆無なことにより可能となった速度である。 ハイパーループ (hyperloop) が実用化された場合、ソウルから釜山まで 20 分で走破できるとは、驚くべきことである。

現在、世界的に大きな競争に入ったもののひとつにドローン開発がある。人が乗らずに無線誘導によって飛行する飛行機やヘリコプター形の飛行体をドローンというが、世界最大のオンライン通販会社のアマゾンが、ドローンを配送に活用したことが世界的な話題になった。さらに中国最大の企業のひとつ、アリババグループがドローンによって商品配送のテストをするというように、ドローンを配送に活用するための競争が激しさを増している。ドローンは商品配送だけでなく、戦争の道具としても開発されている状況である。

そればかりでなく微細なものを製造するナノ技術も急速度で

発展している。ナノ技術は、10 億分の 1 水準の精密度を要求する極微加工の科学技術といわれる。 1 ナノメートル (nm) は 10 億分の 1m として毛髪の太さの 10 万分の 1、大体、原子の 3、4 個の大きさに該当する。世界の先進国ではナノ技術を極大化させるために技術開発に全力を傾けているし、韓国も相当水準のナノ技術を持っている。超高解像度 quantum dotTV、10 ナノ級半導体の素子量産技術、高容量ナノリチウムバッテリー、生分解性脳センサー、ペロブスカイト LED などは誇るべき韓国の技術である。この他にも事物インターネットや自律走行自動車、3D プリンター等、驚くべき科学の発展を成しとげているのがいまの世である。このようにすべてが急スピードで変化してゆく時代の流れに適応できない年配の世代にはあまりにも早い変化に懐疑的な状況である。そして当惑とまでいわずとも、説教者は、驚くほど変化する世の中にあって、昔ながらの聖書の御言葉を持って現代の文明に通じる人々に対し、どのように説教しなければならないか悩んでいる状況である。

聖書を真理として信じているか

このような時代にあって実に重要なことは、聖書は実に神様の御言葉であり、真理として信じているかどうかということである。もし聖書が旧時代の遺物であり、急速に変わる世の中や、今後さらに速く変化する未来に不適切な内容があると考えたら、聖書を持って説教するには、力がなくなってしまいうであろう。さらに進んで言うならば、確信を失った説教者の説教は人々の心を打ったり、新しくしたりすることはできない。

しかし、聖書が神様の御言葉であり、それを真理として信じるのならば、状況は変わる。神様の御言葉である聖書のメッセー

ジが相変わらず人々に最も重要で、必要なメッセージをたくさん含んでいるということを発見するに違いない。先端の科学と文明に高慢な時代ではあるが、かかわらなくて人間は、相変わらず弱い存在である。「そして、一度だけ死ぬことと、死んだあとさばきを受けることが、人間に定まっているように」（ヘブル 9:27）、という聖書の御言葉のとおりには、死の問題を克服することができない。死をもたらす罪（ローマ 5:12,6:23）の問題は、やはり人間の力で解決することができない。

説教者は時代に合うように聖書を変改したり、世の中に妥協しながらメッセージを伝えるという誘惑に勝たなければならない。人間の理性が強調され、科学が発達した人間の合理性に合うように聖書を解釈しようとする自由主義神学は失敗したと言えよう。納得するように説明するがそれは全く無駄なことであつた。むしろ、聖書の御言葉のまま信じて異言も癒しも奇跡もありのまま宣べ伝えて経験したペンテコステ教会がリバイバルを体験したのである。

人間が手段や方法、理性や論理、科学や文明でできることを教会でする必要はない。教会はむしろそれ以上のことをすることができる。すでに述べられた最先端技術に、わたしたちの目をみはるものがあるとしても、人間は被造物にすぎないという弱さを持っていて自らの罪を解決できず、ただイエス様だけが罪を赦し、人間の根源的な問題を解決することができるということをはっきりと認識しなくてはならない。すべてが急速に変わって行くほど、むしろ永遠に変わることのない真理に耳を傾けることが人間の本性であることを知り、もっと確信をもって聖書の御言葉を宣べ伝えるべきであろう。†

これが知りたい | シン・ソンジョン 牧師、＜クリスチャン文学の木＞編集者

エデンの園に出てくる蛇は、 今日私たちが見るその蛇なのか？



多くの神学者たちは、創世記 3 章が文字的真理なのか？あるいは、象徴的真理なのか？——これについて互いに異なる見解を主張しているのが現実だ。しかし、創世記 3 章の記録は、ノアの大洪水の記録のように、古代から受け継がれた歴史的事実である。私たちは、記憶は歴史的事実と異なると考えるが、新約聖書における主イエスの言葉も、聖霊が朗読されるものを記録したのではなく、弟子たちが聞いたことを思い起し、それを福音書の資料として書き記したものである。重要なのは、聖書著者たちがそれを記録する際、聖霊が臨まれ、事実と相違なく記録したという点である。

1986 年に中国の広漢（グアンハン）近くで、驚異なものを発見した。約 4 千 700 年前の人たちが作った細工品だ。青銅で作った果実の木であるが、高さが約 4 メートルにもなると言われている。その木には、青銅で作った蛇と人の手がついていた。エバが誘惑を受けたことを象徴化したものだと思われる。さらに蛇には足がついていた。もっと驚かせるのは、今も絹の蛇や銅の蛇が一組の嫁の足の爪（Spur）を持っている、という非常に興味深いことである。これは、蛇が最初に創造されたときは、四つ足がついていたけれども、今は退化され、這うようになったことを示すのである。創世記 2 章 15 節を見ると、神は蛇が狡猾であり、アダムを誘惑することをすでに知っておられ、エデ

ンの園を耕させ、守らせたのである。

なぜ、神は知識の木である「善悪を知る実は食べてはならない」、という律法をおかれたのだろうか？ それは、知識の中には人間が知っておくべき知識もあるが、絶対に知ってはいけない知識もあるからだ。例えば、アメリカの実用主義哲学者ジョン・ディーイは、性を解放しないから青少年たちが好奇心で性的犯罪を起こすのである。だから、性を解放すべきだと主張した。——アメリカの人々は彼の教えに従った。しかし、結果はどうなっただろうか。堤防があるから水が流れ出るのをせきとめられる。しかし、その堤防を崩す瞬間、水はいっきに流れ出し、その堤防は決壊してしまう。知識にも知っておくべき知識もあるが、知ってはならない知識もある。だから神は、善悪を知る実は食べてはならないと禁じておられたのである。例えば、同性愛や麻薬に対する知識が、現代の青少年たちを滅ぼしてしまったように。

結論は、創世記に書かれた足のついた蛇は、歴史的事実であり、蛇そのものがサタンではなく、サタンに利用されたのである。したがって、蛇がしゃべったのではなく、その中に入り込んだサタンがしゃべったのである。したがって、今の蛇をサタンと考えるのは間違いである。ただ、サタンに利用されただけだ。だから聖書には、「かの年を経たへび」（黙示録 20:2）と表現したのである。大事なことは、蛇の出来事を歴史的に受け止めないなら、聖書の多くの部分を否定するようになり、イエス・キリストの御業（I ヨハネ 3:8、黙示録 20:2）が理解できなくなる。

したがって、創世記に書かれた蛇は、今日の蛇とは異なる。重要なのは、今日のサタンは多くのものを通して囁き、私たちが誘惑しているという点である。†

幸福な人たち／ゴン・ジョング 牧師

全身で福音を伝える踊る礼拝者



国内と国外、呼ばれる所にはどこにでもかけて行き福音を伝えるゴン・ジョング牧師。彼はアガペー芸術宣教団団長である妻リ・ミワンさんと共に神様がくださったタラントを総動員し、海外宣教地や国内未自立教会、軍部隊、刑務所、病院、孤児院、老人ホーム、障がい者施設など疎外され苦しみ隣人たちを訪ね 28 年間福音を伝えてきた。文化宣教の第一線の尖兵として御国の文化を広げていくゴン牧師に彼が使役しているアカデミー小図書館で会った。

ゴン牧師の幼いころは貧困の記憶と辛い出来事でいっぱいだった。彼の母は 16 歳の年で貧しい家庭の事情ゆえに嫁いでいった。貧しい生活のなか、二人の子どもを出産した。しかし、二番目の女の子は母乳を飲む機会さえなく死んでしまう。その後、三番目にゴン牧師が生まれた。しかし、喜びも一瞬で、健康だった長女が 6 歳を期に世を離れてしまった。泣き面に蜂なのか三番目の息子は 3 歳頃になって小児麻痺（ポリオ）にかかった。もうこれ以上痛む気力も、涙も、乗り越える力もなかったが彼の母は息子を助けようという一心で、京畿道シフンからチョンノ 3 街の漢医院まで息子をおぶって何年もの間、治療を受け



ゴン・ジョン牧師と奥様

た。その鍛錬でゴン牧師は歩けるようになった。以後、弟が二人生まれたが末子は重い病気を患い、小学校4年生の時家族を離れた。

「長い間、家族には辛い想いが多かったです。しかし、そんな事から母は信仰生活を始めました。町の長老さん

が伝道してくれました。聖会に参加した母は神様に聞いたそうです。『神様、私に悪いことがあるなら貧しい家に嫁いできて一生懸命に生きてだけの罪です。なぜ私にこんな苦しみをくださるのですか？』その瞬間、神様は私を離れたのが罪とおっしゃって、母はその言葉が悟るようになり、悔い改めと深い体験をしました。母は今まで私の牧会の心強い祈りの後援者になっています。」

以後、仁川に定着したゴン牧師は仁川ジュアン洞にあるデソ・ン・ホーリネス教会で信仰生活をはじめた。彼は青少年時代、教会に行くのが好きで日曜学校の補助教師と聖歌隊員で仕えた。仁川基督学生たちで構成されたカナン合唱団としても活動した。

しかし、高校を卒業して模範生の彼が彷徨の道に入る。大学進学に失敗し、また障害によって軍隊にも行けない身のゆえに、嘆いて家出をした。しかし、母が毎日涙の祈りで夜を明けているという知らせを聞いて、帰ってきた放蕩息子のように何ヶ月あまりで家に戻っていた。

「当時は信心的に多く迷った時期でした。その時、神様が私を慰めてくださり、軍隊に行った友人とは違い、3年という時間がおまけであることに感謝しました。以降、私は神様の恵みで神学校に進学しました。」

彼は神学校に通う時、教会で今の妻に出会った。そして、3年の恋愛の末結婚した。結婚後、彼の妻はピアノ塾を運営しながら信仰生活の良き同労者になってくれた。3人の子供(1男2女)を賜ってくださった。

教会開拓と牧会使役

彼は1990年と神学校を卒業し、教会を開拓した。その年、エステル技能宣教団と共に毎週3～4日ずつ全国の教会を訪ねて農魚村牧会協力使役を始めた。毎年全国のハンセン病定着村を訪れて、1年に四回はソロク島ハンセン病患者定着村で美容室奉仕に参加した。何ヶ月間は賛美の導きと床に散らかっている髪を掃除した。

「ある日、神様が美容奉仕と針術を使って伝道する方法を見せてくださいました。神様が見せてくださったのは、パーマする2～3時間は動くことも出来ず、美容師が伝える福音を聞くしかないということです。それを見て直ぐに美容技能を習いたいと胸が熱くなりました。直ちにパーマとカットの技術を習い、針術も習得しました。その後、農魚村を中心に数多くの人々の髪をカットして、パーマをかけてあげながら福音を伝えました。もの凄く効果的な伝道法です。」

1993年度には教会を移転してピアノ塾と子供宣教室使役をはじめた。生活が貧しい牧会者の子供たちには教育を無料で提供して、貧しい家庭の子供たちには奨学金制度を通じて教育サー

ビスを提供した。7年間子供たちと親たちの福音の基盤になり、これらを通じて教会も少しずつリバイバルした。

そのように牧会使役をしている彼に大きな牧会パラダイムの変化が訪れた。それは担任牧会をおろして文化芸術専門家として使役をしている妻と一緒に同役して他教会、他地域、宣教地の牧会者、宣教師と協力使役を行いなさいということだった。彼には大きな挑戦だった。

「2014年でした。賛美使役者チョン・ヨンデ牧師を通じてCCMアルバムを発売したらと勧められました。深く悩みました。牧師として御言葉を伝えて、賛美の導き程度をしていたがアルバムとは…しかし、神様は過去フィリピンの宣教地で死んでいく現地の子供たちを見て書いた文章を思い出さしてくれました。宣教地から戻ってきても子供たちが忘れられなくて曲を作ろうと思い、『泣き叫び』というタイトルの曲を作りました。結局はこの曲がタイトル曲になり、チョン牧師先生の助けでアルバムを発売しました。」

アルバムを発売後、牧会と文化宣教協力使役についての結論を出すことになった。アガペー芸術宣教団を通じて御国の文化を電波してこれを通路に福音を送り流す使役を本格的に始めるようになった。

「アガペー芸術宣教団は毎年70～100回の公演使役をしています。私たちが扱うジャンルはとっても様々です。韓国伝統舞踊、現代舞踊、身体賛美、ドラマ、手話賛美、ナンタ、タップダンスに至るまで種類を決めなく賛美と福音を基盤として文化使役を広げています。一度は、農村の未自立教会から招待を受けて行ったら地域住民は一人だけで、後は周囲の教会の牧会者とその家族だけでした。礼拝堂はある程度席が埋まりましたが招待

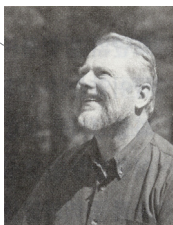


アガペー芸術宣教団は韓国伝統舞踊、現代舞踊、身体賛美、ドラマなどの文化公演を通して福音を伝えている。(左)
1990年代から農漁村地域などを訪ね、美容や針術奉仕を通して伝道をしている(右)

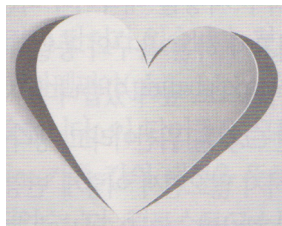
した牧師は落胆した顔色でした。私たちはいつも最高の水準で神様に捧げる心構えで使役をしますが、その日、ほかの誰よりもその教会の牧師先生が大きな慰めを受けました。農村使役で疲れ果てた牧師先生の魂が治癒される姿をみました。神様が心を癒し、慰めてくださったのです。」

国内の劣悪な環境の牧会地だけではなく、海外でも協力使役の要請が入ってくる。今年だけでも北中米のアメリカのL.Aとホンジュラスに行ってきた。9月はカナダから使役要請が入っていて練習に励んでいる。

「アガペー芸術宣教団は基督文化芸術研究の為に神様の知恵を求めながら共に働く同役者たちを探しています。この世に存在する全ての踊りと楽器で神様を礼拝する日を夢見て祈ります。28年間至らない私を神様の道具として使ってくださいことに感謝しています。」全身で福音を伝える踊る礼拝者になるため、今日も汗と祈りで準備しています。」(アガペー芸術宣教団お問い合わせ：032－256－1112)



愛をもって 仕えること



今まで私たちは、ローマ人への手紙 12 章を学んできました。先月は 6 ～ 8 節において使徒パウロが述べている、聖霊が各自に与える異なる賜物、異なる信仰をもって共同体に仕えることについて集中して学んできました。今月も継続して互いに仕えることについて学びたいと思います。まずは、その方法よりも、その理由、愛について見てみたいと思います。

まず、9 節を見てみましょう。

「愛には偽りがあってはならない。悪は憎み退け、善には親しみ結び」(ローマ 12:9)

私たちが愛すべきだということは知っています。主イエスは「愛しなさい」と、私たちに命じられました。ヨハネによる福音書 13 章 34 節において、主は「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」と命じられました。そして、ヨハネによる福音書 15 章 13 ～ 17 節において、主はもう一度この主題を持ち出されます。意外にも、主は聖書の至る所で愛することについて切実に話されます。使徒パウロもやは

り、「愛」を主題に、あらゆる箇所を持ち出しています。特に、コリント人への第一の手紙 13 章がそうです。このローマ人への手紙において、使徒パウロは、私たちが互いに愛し合うよう、偽りのない真心で愛し合うよう命令を受けている。——だから、互いに愛し合いなさいと勧めます。

ここで私は「愛」について述べたいと思います。少し興味深い部分があるからです。私たちはよく、愛を、愛着や他の人と一緒にいたいと思う感情、他の人に仕えようという欲求と同一視します。これらは、すべて感情、そうしたいという願望です。実は、自分自身は望んでいないのに、愛するかのような行動をすると、それは偽善に思えるかもしれません。他人のための善い行いをするわけでもないのに、と弁明する人がいます。——「もし、私がそうすれば、それは偽善になるから、私はしたくない」と。

しかし、これは歪曲された考えであり、愛を感情と同一視することから始まったものです。父デ・チョンドク神父は、「アガペの愛とは、『冷静な』愛、感情がなくても行動で示す愛」だと述べました。「感情は信仰に従う (“feelings follow faith”)」という言葉あります。(英語で、「f」で始まる 3 つの単語を使う英語表現ですが、他国の言語で表現したからといって、その意味が薄れるわけではありません)。この言葉は、感情——誰かを愛するという感情、何かを出来るという感情、ないしは信仰を持つという感情——を待つ必要がないということを意味します。それが正しいと知っているから、感情がなくても愛の行動ができるのです。

従順によって愛の行動をします。私にとって最も大きな信仰は、単純な従順です。正しいことをすれば良い結果が見られるだろうし、初めはなかった良い感情が芽生えるはずです。従順

によって愛の行動をすれば、それは偽善ではありません。愛の感情は、私たちの従順のゆえについてくるものだということがわかるはずです。私は個人的に、このような経験がたくさんあります。偽りこそ、本当の偽善的な愛です。他の人に、私たちが望むことをさせるために、結果としてかえってくる何らかを得るために、愛のように見せかけること、これが偽善的な愛です。これは悪いことです。これを忌み嫌い、善いと思うことに堅く立たなければなりません。

使徒パウロは、感情ではなく、従順に基づいた愛について述べた後、10 節で非常に感情的、かつ暖かい家族的な愛を述べます。

「兄弟の愛をもって互いにいつくしみ、進んで互いに尊敬し合いなさい。」（ローマ 12:10）

謙遜と尊敬

この箇所で見たい二つのギリシャ語の単語があります。一つは、「フィロストルゴス (philostorgos)」であり、もう一つは、「フィラデルフィア (philadelphia)」です。みなさんもお存じのように、この二つの単語は非常に似ています。この単語は、二つとも「フィ (phil)」から始まります。兄弟を愛する、家族間の愛情を意味する「フィレオ (phileo)」という単語がすなわち、ここから派生したものです。フィロストルゴスは、親切に親密さをもって互いに献身するよう命じます。フィラデルフィアは、そのように献身する際に持つようになる愛、兄弟姉妹に対する温かい心情、信じる聖徒たちの間で分かち合う愛です。これらはすべてが感情、より正確に言えば、心からにじみ出る温かい愛に満ちあふれる愛です。

9 節におけるアガペの愛とは、絶対的であり、真実な、感情とは関係なくなされる愛、理想的な愛の姿です。反面、10 節におけるフィレオの愛は、この真実な愛が表現され、発揮される方法です。このような愛の雰囲気において、残りの部分、進んで互いに尊敬し合うことは非常に容易いことです。愛の前では何でもない、自分の地位や名誉について考えず、同僚の間ではもちろんのこと、それ以外の関係においても、互いに尊敬し合わなければなりません。ある英語翻訳本（“The English Standard Version”）では、「尊敬することにおいて、秀逸を極めなさい」とあります。つまり、名誉のために競争するよりは、他の人に対し、心から尊敬することに競争し合いなさいという意味です。

ここに言い加えるならば、単なる礼儀正しさだけでなく、自身を低くし、謙遜に尊敬を示しなさいということです。容易ではないことはわかっています。私たちみな、心からそのような態度、そのような心を持つなら、いかに素晴らしいことでしょう。

次に、11 節～13 節は、神への私たちの心と互いに仕え合うことを、いかにしてその気持ちを示すべきか、その主題に戻ります。

「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え、望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。貧しい聖徒を助け、努めて旅人をもてなしなさい。」（ローマ 12:11～13）

使徒パウロは、主が私たちのためになされたこと、特に、救い——永遠の命への希望——の贈り物を期待し、喜びながら熱心に情熱をもって主に仕えなさいと勧めています。ゆえに、私たちは祈りをもって主と交わり、他の人々にわが家の門を開放

するとともに、キリストにあって兄弟姉妹の必要を満たすことです。

聖書における「努めて旅人をもてなさい」ということは、単に食堂で食事をもてなすことや、宴会を催すことではなく、わが家を、わが人生を分かち合うことを意味します。この愛とコイノニアの働きは、私たちが暮らしているその場所、私たちの生活の中で——私たちの自宅、わが家で——なされるべきです。

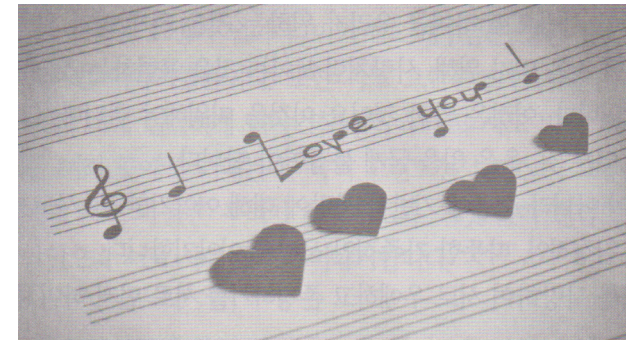
「あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福して、のろってはならない。」(ローマ 12:14)

——これ以上つけ加える言葉はありません。私たちはこれが容易ではないことも知っています。主イエスも同じことをお仰せになりました。これは、前節における、「望みをいだいて喜び、患難に耐え」(12 節) ることと、本当に一致します。私たちの心と思考の中にそのような望みがあれば、患難の中にあっても耐え忍ぶことができ、私たちに試練を与える人を祝福しやすくなります。

次の二つの節(15～16 節)は、教会共同体であれ、家族共同体であれ、イエス院のような形の共同体であれ、共同体として生きることに対する重要な鍵となります。

「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。互いに思うことをひとつにし、高ぶった思いをいだかず、かえって低い者たちと交わるがよい。自分が知者だと思いあがってはならない。」(ローマ 12:15～16)

互いに親密に人生を分かち合い、愛をもって共に生きていくなら、ある人が出産したり、大きな名誉を得たりするなど、特別な祝福を受けたとき、私たちの心は、彼らへの喜びに満ちる

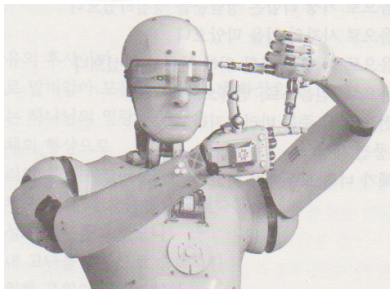


はずです。あたかも自分自身がそのような祝福を受けたかのように、です。また、悲しみや苦しみに遭っている人がいれば、彼らと共に泣き、激励し、慰労し合いながら互いへの愛は大きくなり、共同体の結束はより強くなるでしょう。そうすると、必然的に次の節、「互いに思うことをひとつにし」(16 節) が可能になります。

私たちはみな共にいくのです。心と思いはひとつなのです。私たちはひとつです。これが実態となったとき、そこにはもはや自尊心も、傲慢も、自慢もなくなります。彼らが大事な人であれ、世間から疎外された人であれ、もはや周りの人の身分や地位には関心を示さなくなるのです。私たちはみなひとつであり、みな同じだからです。

次の段階は、私たちの共同体、交際圏を超え、それ以上のところへと向かうのです。使徒パウロはローマ人への手紙 12 章の最後の部分に、私たちをそちらへと導きます。次回はこの部分について見てみたいと思います。†

人間のもうひとつの友人、 ロボット市場の—— トレンドについての考察



今後 10 年、1 世帯 1 ロボットの時代がくると私は見通している。デジタル世代の今の子供がロボットに対して正しい認識、価値観、創意的質問と学習

をまず家庭と学校で行うように、韓国政府は総合的ロボット活用生態系の設計、組織を行なう必要がある。ロボットに対する関心は、今がいかなる時期よりも重要である。

人と対話できる友人が現れた。日本シルバー 世帯 1、2 人の家庭のうち、65% がロボットを話友だちとして求めるアンケート調査が発表された。2016 年、孫正義会長が発表したペッパーはすでに日本の家庭 12 万世帯にレンタルされ、朝の挨拶から昼の食事、帰宅の挨拶、就寝時のおやすみに至るまで対応できる、新たなもう一つの家族となった。

それに比べて韓国では、製造の生産分野のロボットを除き、一般家庭では友人となるロボットについては見るべきものがない実情である。政府は、2020 年までにロボット市場需要を創出して国内のロボット生産規模 6 兆ウォンを達成するという目標を明らかにしたが、国内のロボット生産規模は 2014 年基準で 2 兆 6 千億ウォンに過ぎない。特に国内には個人サービス用ロボット市場の

場合、2 千 394 億ウォン水準の規模に過ぎず、いまだ零細な水準であるが、しかし、年平均 87.9%以上の成長を記録している。

とすれば、かかる人間のもうひとつの友人であるロボット、その市場が作り出すトレンドとはいかなるものか。

第一に、カテゴリーが多様化していること。ロボット (Robot) という名は、チェコの二十世紀の著名な劇作家キャロル・ケペック (Karel Capek, 1890 ~ 1938) によって創始されたが、当時、彼は近年よく知られるロボット (Robot) という用語をしばしば用いた変人であった。彼が 1920 年に書いて 1921 年に発表した作品、R.U.R. (Ros. ums uversal Robots) において、最初に公式化されたロボットという単語を使用した。この当時のロボットは、チェコ語の Robota であったが、これは労働 (Labor) と奴隷 (Slave) の合成語であった。こうしてチェコの小作農、奴隷労働者を意味するロボット (Robot)、またはロボトニック (Robotnick) という用語が 1960 年代に普遍化する。このような人間の仕事を代替するロボットは、その語源のように人間がしている仕事を代替する形式で大きく 5 つのカテゴリーに分けられる。産業用ロボット分野、ロボットサービスコンテンツ分野、専門サービス用ロボット分野、個人サービス用ロボット分野、ロボット基盤技術分野がそれである。このようなカテゴリーのロボットは、軍事、医療、文化、教育、環境、エネルギー等というように、ロボットは人間の活動領域を拡張させながら、同時にそれを代替するかたちで発展している。

第二に、人工知能との結合。ロボットは、人間の持つような感情を持つことができない。しかし、人間の感情表現から表れる表情を読んで、それが意味する感情をパターン化し、把握することができる。すでにアメリカメ MIT メディアレップはこの

技術を相当の水準まで研究開発した。HRI(Human Robot Interaction)と呼ぶこの技術は、人間とロボットの相互作用を研究する技術で、各種状況、対話テーマ、質問と返答、表情と意味、類似状況と対比状況などが蓄積されるほど、ロボット内の人工知能がこれをキャッチして人間の話を理解して聞くようになる。ソフトバンクのペッパーが、そのような家庭での経験を多く積み上げ、食膳でのロボットとの各種質問、おしゃべりを聞いて一日をはじめることができる。ロボットの学習は、結局、人工知能との結合によって可能であり、ロボットと接点を持って会う人との対話は人工知能プラットフォーム内で蓄積されることにより、すぐれた人間の友人となるであろう。

第三に、日常への浸透。すでにロボットは、私たちが考えるより多く日常生活に浸透している。ロボット警察、ロボット保安警備員、ロボットピアニスト、ロボット看護師、ロボット案内員、ロボット商品紹介ガイドなどとして活動している。最近では日常への浸透が3つ単語で要約されて発展している。すなわち、ソーシャル、ヘルスケア、社会保障である。すでにソウル大で開発された別名ママロボットは、共稼ぎ家庭で家政婦に代わって子供を世話する。育児の難しさを解消することに寄与して仕事と家庭の両立を可能にするのが目的である。シンガポール南洋大で開発した人間と対話し交感するソーシャルロボット「ナディン」は、会った人の外貌から発せられた言葉を内蔵されたメモリーにすべて保存し、1人世帯、シルバー世帯の友人となって彼らの社会的ストレス、寂しさ等を解消するのに役立っている。カーイーストの災難ロボットは、災害現場復旧や人命救助の等に投入される予定である。

最後に協業ロボットの拡大である。先進国ではロボットが人間

の職業を代替する協同ロボットに開かれた姿勢を示している。たとえば、アメリカの場合、協同ロボット (Co-Robot) による製造工程革新、先端製造業強化戦略 (AMP) を推進しているし、ドイツでは、ロボット同伴プロジェクトであるロボコムとして他産業との融合を行っている。また、中国では、中国製組 2025 とロボット集中育成計画によりロボット産業育成を本格化している。人間を通して業務を把握する協同ロボットは効率性を高めるとともにヒューマンエラーを減らし、業務のロスを減らしている。スマートファクトリー、スマートファームが実現する場合、必要なのが事物インターネットとビッグデータそして協同ロボットである。協同ロボットに対する多様な活用と研究は増え続けている。

ロボット市場は、全世界的に日本が最先端を進んでいる。すでに人工知能を基盤に天文学的資金の 200 兆ウォンを投資して既存の流通、宿泊、小売、物流にすでに資金投入を始めて久しく、これにより低出産と超高齢化の時代に備えている。量販店等流通業系、各種デスク基盤の顧客応対業（ホテル、宿泊、外食業系、単純生産職）、各種工場の生産業務などの労働者雇用はロボットによって 3 年以内に打撃を受けられると思われる。

問題は、韓国政府のロボット産業政策が製造用ロボットに集中して、ロボットビジネスベルト、ロボットランドのようなクラスター (cluster 産業集積地) は、方向性に明確さを欠いた状態であることにある。明らかなこととして、今後 10 年、1 世帯 1 ロボットの時代がくると私は見通している。デジタル世代の今の子供がロボットに対して正しい認識、価値観、創意的質問と学習をまず家庭と学校で行うように、韓国政府は総合的ロボット活用生態系の設計、組織を行なう必要がある。ロボットに対する関心は、今がいかなる時期よりも重要である。†

迫りくる審判の日、「ヨムハフー」



同性愛は、数の上ではまだ少数である。しかしその影響力の点で、昨今、政治、経済、文化、教育、メディア、さらには宗教までも動かす世論となっている。これは、歴史上初めての事態である。世界中で庶民が食べるハンバーガーの包装紙にさえ、彼らの存在を支持する虹のロゴが入っている。公共機関である学校のトイレに男女の標識がなくなり、アメリカの首都ワシントン D.C. の運転免許証には、男性と女性、そして中性 (Neutral) の標識が入るようになった。これは、人類の歴史にかつてない道徳的反逆であり、人を造られた神に対抗する出来事にほかならない。

世界の経済と文化の中心地マンハッタンでは、キリスト教行

事を公開で実施することが不可能になった。横断歩道を利用した行事さえも許可されない。しかし、同性愛パレードは車道を遮断して行われ、市長や政治家たちが積極的に参加する大型行事となっている。もはや同性愛者がキリスト者を迫害する日がじわじわと近づいてきているのだ——ソドムでロトの家族が経験したのと同じように——。

人類は、木星を経て土星へと人工衛星を打ち上げ、宇宙の中で他の生命体を探し出そうと必死になっている一方で、人を創造された神を追い求めることをせず、ソドムに囚われたロトのような状態にある。韓国の歴史において古朝鮮の中心地だった現・中国の集安市には、エジプトのピラミッドより大きなピラミッドが存在する。これはグーグルで検索すればわかることであるのに、歴史的眞実であっても政治的に簡単に伏せられてしまう。その一方で、利害関係のない木星の衛星で水の柱を発見したことは、マスコミがこぞって報道するのだ。歴史的眞実も政治的圧力の下に隠されてしまうほどまでに、人間は不義なものとなってしまった。ドイツの記者が中国のピラミッドを撮って写真集を出したとしても、政治的に止められればそれは存在しないものとなる。

戦争とともに、科学は著しい進歩を重ねてきた。罪人である人間は、人間の起源を理解しようと遺伝子情報地図を描くゲノム・プロジェクト (Human Genom Project) を追究しているが、その人間をお造りになった神を追い求めることはせず、靈的に死んだままにいる。ご自身にかたどって人を造られた神を礼拝しなくてもまったく気にならないほど、彼らの靈は作動しなくなっているのである。一度も食べたことのない善悪を知る実の味と効能を、エバが見ただけでわかったと思いこんだのと同様

に、人間は神を否定していながらも、肉体の生命の秘密を把握しようと血眼になっている。亡くなった人の心臓等の内臓器官や、甚だしくは手首まで移植するまでに医学は発展し、遂には死んだ人の頭を他の人に移植するという発表までなされた。しかし、彼らには科学的発展という問題よりも、むしろ道徳的限界という問題がある。生命工学は人間に有益であるかのように見えても、神の創造に対抗するものであり、一種のバベルの塔なのだ。

ついに人間の科学は、トランスジェンダー (Transgender) まで作り出した。神が定めておられた性を変えることだ。同性愛が、神が定められた生命を生む性の対象を変えるのなら、トランスジェンダーは神が両親を通して与えられた自分自身の性 (Gender) を変える科学であり考え方である。これらは、二つとも神に対抗するバベルの塔である。これは罪 (sin) というより、反逆 (Rebellion) だ。エデンの園におかれた命の木の実を見ることよりも善悪を知る実の味だけに関心を示したエバのように、人間は、神が人類は生命を生むために定めた性 (Gender) を見るよりも性 (Sex) の味に溺れている。このことは、石の板に書かれた十戒には記されていない。十戒に記されたのは罪 (sin) の領域だ。しかし同性愛は、パウロがローマ人への手紙1章に、他の罪より先に、あえて別に記録したように、十戒の罪よりもっと深刻なニムロデの反逆 (Rebellion) である。公教育の始まりである幼稚園から家族単位として男と女、男と男、女と女の組み合わせを平等に教えることは、不倫よりもっとひどい国家的な暴虐だ。[アメリカの] 幼稚園の教材の絵が示しているのは、もはや性的少数者ではない。正常な夫婦より、同性婚者の絵の方が場合によっては数が多い。教科書の絵だけに

はとどまらない。神は聖書においてソドムの町について明示しておられる。——「ところが彼らの寝ないうちに、ソドムの町の人々は、若い者も老人も (from the young to the old)、民がみな四方からきて、その家を囲み、ロトに叫んで言った、『今夜おまえの所に来た人々はどこにいるか。それをここに出しなさい。われわれは彼らを知るであろう』」(創世記 19:4～5)。ヘブル語原文では「少年から大人に至るまで」と記されている。幼稚園の教科書は、そのような事態を幼いときから刷り込んでいるのである。アメリカの法廷は、その幼稚園の教育を拒んだ子どもの父親を裁いた。ソドムの同性愛は淫乱と姦淫であり、神が御怒りにより火で裁かれるほどのものであった。墮落したソドムの町への審判は、当時はひとつの都市にだけ下されたものであったが、今後はノアの洪水の如く、地球全体への審判として近づいてきている。

アメリカの大学の学生たちは、同性愛の教授はより人格的でジェントルだと言う。しかし、神の目から見れば、同性愛は殺人と姦淫を合わせたほどの大きな罪である。相手の性 (Gender) を殺めることであり、同じ性 (sex) を犯す姦淫なのである。同性愛に満ちた一世代の後、人類は子どもを産まずに滅亡してしまうであろう。その間、親から捨てられた不幸な子どもたちを養子縁組する期間がしばらく続くようになる。このようにして、同性愛は人類を一世代で絶滅しうる殺人 (集団殺人、Tenocide) に等しい。他方、トランスジェンダーは姦淫と自殺を合わせたもののようだ。自身の性 (Gender) を殺し、実際には同じ性を奪うことなのである。同性愛とトランスジェンダーをつかさどる悪魔は、全人類を惑わす非常に高いレベルのサタンだ。世界大戦を起させた悪魔よりも悪賢く残忍である。今や、そのサタ

ンが世界の政治、経済、文化、教育、メディアを支配している。これらのものから逃れる道は、聖書に記された神の御言葉だけである。

最近、ひげを伸ばした男性が妊娠した姿で、ひげの生えた男性とポーズを取っている写真がインターネットに登場した。ひげを伸ばしたその妊娠した男性は、本来女性だというのであり、彼らは同性愛のトランスジェンダー夫婦だと伝える恐ろしいニュースだ。神の御旨でソドムの町に下された硫黄の火のように、義なる神の御怒りが燃え上がる時代、そういう時代に私たちは暮らしているのである。

このような文章をいつまで書くことができるだろうか。自分の家に囚われていたロトのように、同性愛とトランスジェンダーを支持するマスコミが世の中を支配し、抗議する声が弾圧される時、火による裁きへのカウントダウンが始まるであろう。旧約の聖徒は、その審判の日をヨムハフー（the Day）と呼んだ。神を恐れる彼らにとっては、その審判の日こそ、あらゆる不義に打ち勝つ聖なる日である。†

発行：純福音東京教会・出版部

【翻 訳】：諸星健児 執事、林俊秀教育生、間杉綾乃 執事、李 珍 執事、山野永理 勸士、趙芝賢 伝道師、澤田義則 執事、金景娥 執事、朴宰完 按手執事、金澤由紀子 勸士

【日本語校正】：諸星健児 執事、松谷恵理 執事、間杉綾乃 執事、金澤由美 姉妹、吉田綾子 執事、笠原幸子 執事、武石みどり 執事、向川 誉 執事、澤田義則 執事

【印刷・製本】：間杉典生 按手執事

【再 編 集】：金澤由紀子 勸士
